

序章 本書の研究視角と近世大名家研究への展望……………荒武賢一郎

はじめに 5

一 藩研究の課題と意義 7

二 松代では何をすべきか 11

第一編 文化・文政期における在地支配と金融

第一章 文化・文政期の松代藩の在地支配構造……………福澤 徹三 19

―郡方支配の藩政機構分析と難渋村対策を中心に―

はじめに 19

一 郡方支配の政治構造 21

二 願い書の差出し先と勘定所元メ役の職分 34

三 文政四年勘定所元メ日記の分析 38

四 文政四年の難渋村への対応 45

おわりに 54

第二章 松代藩御用商人八田家の金融……………大橋 毅 61

—文化・文政期を中心に—

はじめに 61

一 八田家の組織と経営状況 63

二 八田家と藩の貸借関係 73

三 八田家の松代藩領内の金融活動 83

おわりに 94

第二編 近世後期～明治初年における領政機構の実像

第三章 藩財政は「窮乏」していたのか……………伊藤 昭弘 103

はじめに 103

一 勝手方について 105

二 単年度会計の実態 108

三 バランスシートからみる財務構造—資産を中心に— 114

四 債務の分析 126

おわりに 131

第四章 在坂役人の活動と蔵屋敷問題……………荒武賢一郎 137

—幕末維新期の混乱とその特質—

はじめに 137

一 嘉永年間における大坂交易のとらえ直し—大坂への二つの回路— 139

二 安政—文久年間の状況と大坂駐在役人の活動実態 148

三 関田恭蔵と大坂蔵屋敷設置 152

おわりに 166

第五章 近世後期における武具政策の展開……………神谷 大介 173

荒武賢一郎

はじめに 173

一 武具方の組織形態 175

二 文化・文政期における武具方細工人の活動 184

三 天保—嘉永期における鉄砲生産の展開 192

おわりに 201

第六章 海防における銃砲配備問題と武具方……………神谷 大介 205

はじめに 205

一 江戸内海防備と鉄砲の配備 208

二 江戸における鉄砲の配備状況 211

三 鉄砲の生産と職人の雇用 219

おわりに 232

第七章 明治四年の藩議院と議員の活動……………今村 直樹 239

はじめに 239

一 松代騒動後の藩政と知事職返上問題 242

二 藩議院の設立と才覚金の調達 249

三 藩議院における議論 267

おわりに 279

終章 ……………渡辺 尚志 287